

事務事業名	食生活改善推進員養成事業	事業期間	～	年度	係内番号	22
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係	連絡先	330	

計	政策番号	01	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
			基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業									
			基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業									
			実行計画	08	食育推進計画	0303	食育を広める									
画	予算事業名	食生活改善推進員育成事業費					会計コード	02	款	04	項	03	目	03	事業	03
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	おいしく楽しく健康講座：市内の成人男女を対象とし、年6回健康に関する講座を開催する。この講座の特定単位を取得した人に、修了証を発行し、食生活改善推進員に入会する資格とする。														
	現状と背景 (どうして)	食生活が多様化、情報が氾濫する中、生活リズムや食生活の乱れが目立つ。これらが、生活習慣病の有病率にも繋がっている。このような中で、さまざまなライフステージにおいて、健康を維持・増進するために、望ましい食生活を実践する力を付ける等、健康意識を高め実践していく必要がある。														
	目的	受益者 (誰のために)	市民													
L	対象	対象 (直接働きかける)	市民													
	的意 (どんな状態にしたいか)	食や運動に関する正しい知識を習得し、健康意識を高め、自分や家族の健康増進のために望ましい食生活を実践する。講座を修了した人は食生活改善推進員として地域の食生活改善に取り組む。														
A	手段・方法 (どうやって)	年間計画を企画し、広報、ピーナチャンネル、ホームページ、新聞等様々なメディアで、参加を呼びかける。食事・運動・休養に関する講話や実技、グループワーク、調理実習を行う。														
	N	評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
1			食生活改善の重要性の理解度の向上	教室実施回数	回		5									
2																
3																
変更履歴	2019年度から教室の開催回数を5回とする															
O	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値										
		1	食生活に興味、関心を持つ	のべ参加者数	人	教室参加者数	120									
		2														
		変更履歴														

実 施 状 況 （ D O ） 考	項	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	財 源 内 訳	事業費等(a)	円	85,556	77,922	93,000		
		国庫支出金	円					
		県支出金	円	9,000	13,000			
		地方債	円					
		その他特定財源	円	66,578	61,292	73,000		
	一般財源	円	9,978	3,630	20,000			
	活 動 指 標	教室実施回数	目標	回	6	5	5	
			実績	回	6	5		
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	
		-	目標	-				
			実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-	
	成 果 指 標	のべ参加者数	目標	人	120	100	100	
実績			人	122	60			
達成率			%	101.67	60.00	-	-	
-		目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	

事務事業名	食生活改善推進員養成事業		事業期間	～	年度	係内番号	22
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係		連絡先		330

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		受講者が16人と少なかったことに加え、60代4人、70代9人と高齢者が多かった。そのため11人の修了者のうち、食生活推進協議会の入会者が4人と少なくなった。	ほとんどの参加者が70歳前後で、食生活改善推進協会員としてこれから活躍しているが、自身の生活習慣病予防への関心は高く、熱心に生活改善に取り組んでいる。		
価値（C H E C K）	成果	食生活推進協議会の入会者は少なかったが、アンケート結果から、自分の健康のために、「薄味を心がけるようになった」「ウォーキングを始めた」「食事に気を付けるようになった」と受講者全員が何らかの行動をするようになった。	昨年度より、食生活改善推進協議会へ参加の希望者は多かった。「健診の大切さがわかった」「運動に目を向けるようになった」「家で教わった料理や運動を続けている」と受講者が健康増進への取り組み姿が見られた。			
	課題	高齢の参加者が多くなる傾向にあるため、食生活改善推進協議会への参加者が少ない。	30代、50代の若い参加者は、就職や介護で脱落してしまった。若い世代が参加しやすいよう、回数を減らしたが、効果が得られなかった。			
改革・改善の方向性（ACT）	翌々年度方向性	成果 拡充 コスト 現状維持	現状維持 現状維持			
	改革の方向性の内容	自分や家族の健康について見直し、実践する人を増やしたり、食育活動をする人を増やすため、各施設にチラシを配布したり、ピーナツチャンネル、広報ちのでの呼びかけを早い時期から始め、応募期間を延ばす。また、若い人の参加者を増やすため、保育園の保護者にチラシを配布する。食生活改善推進員にも参加の呼びかけを協力してもら	若い世代が参加しやすいよう、午前中で修了する日程にする。食生活改善推進協議会の活動についてのPRの方法を見直し、入会希望者を増やす。修了者は、健康増進のために、何らかの実践を継続している姿が見られる。今後も健康に関心をもち、実践する人を増やすため、事業を継続する。			

作成担当者	堀 美恵	堀 美恵			
最終評価責任者	柳澤 澄子	齊藤 明美			
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日			